

中部臨空都市の整備方向

(1) 中部臨空都市推進計画の性格

- ・ 空港島地域開発用地及び空港対岸部地域開発用地埋立造成事業区域を「中部臨空都市」と称する。
- ・ 「中部臨空都市」の整備は、新東京国際空港と関西国際空港と並んで我が国の24時間型国際拠点空港として整備される中部国際空港に隣接し、あるいは、近接した地区を対象に行われる我が国有数の大規模なまちづくり事業である。
- ・ 中部国際空港が我が国を代表する国際拠点空港として、発展し成熟していくためには、地域として中部国際空港の円滑で効率的な運用をサポートするとともに、空港がもたらすインパクトを適切かつ最大限に活用することにより、空港と地域の共生を図っていくことが必要である。
- ・ 「中部臨空都市」は、空港がもたらすインパクトを最大限に活かした全国的・世界的な都市拠点の形成を目指しうる貴重な土地資源であり、このまちづくりにあたっては、ローカルからグローバルにおよぶ幅広い視点にたって、世界的レベルの先進的かつ本格的な臨空都市を指向しなければならない。
- ・ この推進計画は、そのような観点にたって、「中部臨空都市」を展開させるための基本的な考え方を掲げたものである。
- ・ なお、具体のまちづくりの実施指針として、別に「中部臨空都市まちづくりガイドライン」を定める。

(2) 基本目標

- ・ 中部臨空都市推進計画の性格で指摘した観点に立ち、中部臨空都市は次の基本目標の達成に向けて推進する。

世界レベルの先進的かつ本格的な国際臨空都市の実現

世界的視野に基づく企業誘致と中核プロジェクトによる次世代産業拠点の実現

環境に配慮した資源循環型のまちの実現

(3) まちづくりの基本方針

ア まちづくりコンセプト

- ・ 基本目標を達成するために、次のまちづくりコンセプトのもとで推進する。

次世代の産業技術やライフスタイルが創造・発信されるエアフロント・シティ

中部臨空都市

～伊勢湾新拠点をめざして～

次世代産業技術のグローバル・ゲートシティ

国際性のあるにぎわいを備えた新たな生活を提案するライフスタイル創造都市

次世代を担う国際人を育む都市

- ・ まちづくりコンセプトは次に示す5つの基本方針によって支えられる。

(ア) 大交流時代の国際マーケット・プレイス ～世界に開かれたアミューズメント型商業～

世界との交流人口を生み出す国際スケールのマーケット
海外からの集客を視野に入れた大規模集客事業による生き生きとしたにぎわいの創出拠点
中部圏の広域商圈から集客できる商品流通の業態革新

伊勢湾の魚介など自然の豊かさを享受できるにぎわい拠点空間

(イ) 次世代産業を担う革新技术の拠点

～イノバテック・プレイス～

イノバテックは、イノベーション(革新)+テクノロジー(技術)の造語
ITS関連技術、モバイルネットワーク技術、クリーンエネルギー未来住宅など次世代産業技術の実用化と普及をめざす拠点
世界の人々が近未来技術を体感できる技術交流拠点
未来のものづくり人材を養成する国際教育研修の場

(ウ) 活力ある国際ビジネス空間

中核的施設や有力企業の誘致を契機として、国際的なビジネスが創出・展開される場
国際人を養成するための教育研修拠点

(エ) 次世代エネルギーを活かしたまちづくりへの挑戦

～プロトンアイランズ構想の実現～

次世代エネルギーによる環境調和型の先進的なまちづくり

分散型クリーンエネルギーによる省エネルギー都市の実現

環境負荷の少ない新たな都市・生活のあり方の提案

進出企業のエネルギーコスト低減への貢献
国等のエネルギー関連プロジェクトの誘致

(オ) 先進的な国際航空貨物の総合物流拠点

中部国際空港の貨物地区と機能的に一体化した総合物流拠点

伊勢湾、三河湾との連携を生かしたシー&エアの総合物流拠点

イ 先導・中核プロジェクト

- ・ 中部臨空都市が目指すまちを実現するためには、まちづくりを牽引していかれるだけのインパクトを備えたプロジェクトを戦略的に導入することが不可欠となる。
- ・ 中部国際空港の開港予定である2005年3月までに進出が具体化する創設期の牽引プロジェクトを先導プロジェクト、また、段階整備の二期目に当たる展開期の牽引プロジェクトを中核プロジェクトとして位置付け、図表1-1のプロジェクト候補を掲げて、その誘致と実現を目指す。

ウ 中部臨空都市が発信するメッセージ

地域に向けて 国内外との交流を通して知多半島の人・自然・文化を再発見できるまち。個性と活力ある未来の知多半島がここから生まれる。

中部圏に向けて 環伊勢湾の自然やものづくりを体験できる新世紀の非日常的な交流拠点。ビジネスストーリーとエンターテインメントあふれる、最も新しい個性派ベイエリア。世界に向けて 伝統と先進技術が集まるものづくりの国の空と海の玄関口。目を見張る次世代の産業とライフスタイルが創造・発信され、地域と世界が直結するゲートウェイ。

エ 人口フレーム

- ・ 2025年の計画フレームを以下のように設定する。

事業面積	空港島	約107ha
	空港対岸部	約123ha
	合計	約230ha
就業人口		約1万7千人
夜間人口(=常住人口+宿泊滞在人口)		約2千人
交流人口		約1千万人/年間

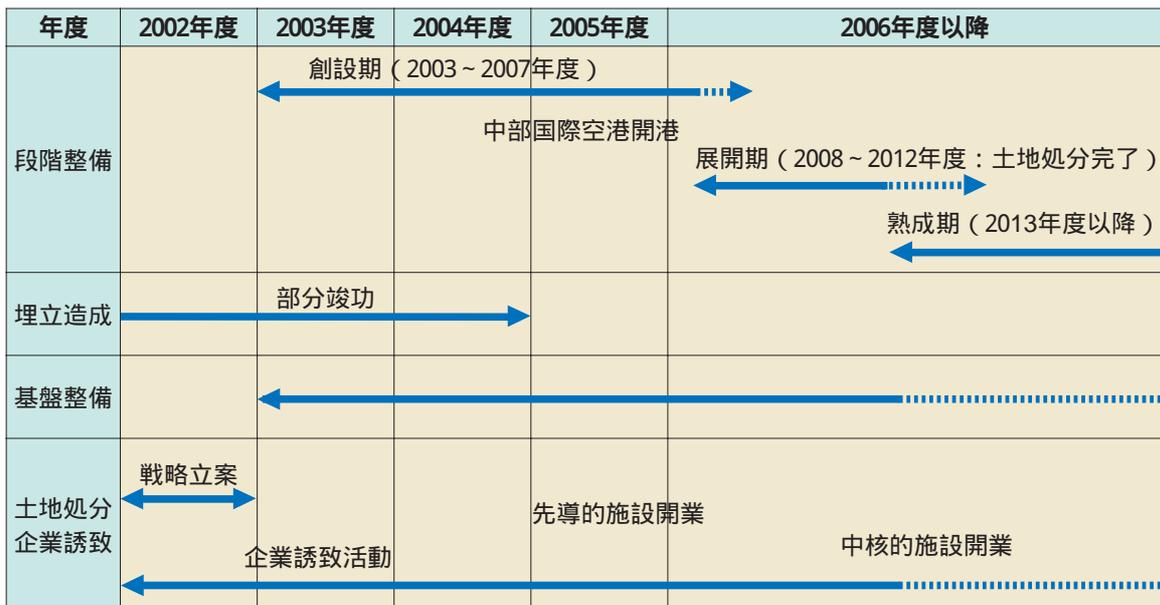
オ 段階的整備

- ・ 大規模なまちづくり事業は、先行する類似事例を見ても事業期間に長期を要することが一般的である。本事業においては期間を3期に分けた段階整備によって実現していく。
(ア) 創設期：借地方式、暫定利用を含めて土地の利用を優先
空港開港時に先導的施設の開業をめざす。
(イ) 展開期：中核的施設の開業をめざす。
(ウ) 熟成期：まちづくりの熟成をめざす。

図表 1 - 1 先導・中核プロジェクトの例

1 大交流時代の国際マーケット・プレイス ～世界に開かれたアミューズメント型商業～
(ア) アウトレット・モール(アミューズメント性のある非日常型大規模商業施設) (イ) ダイレクト・マート(空港隣接型の輸入品直販施設) (ウ) フィッシャーメンズ・ワーフ(海鮮食品の量販と飲食施設)
2 次世代産業を担う革新技術の拠点 ～イノバテック・プレイス～
(ア) ものづくり人材の国際養成機関(国際ものづくり大学等) (イ) 次世代モビリティ(移動)システム体験パーク(ワールド・カー・ショーケース等) (ウ) ITS関連の国際推進機構(ITSアジアセンター等) (エ) クリーンエネルギー未来住宅体験パーク
3 活力ある国際ビジネス空間
(ア) 国際人教育研修拠点(大学等) (イ) コンベンション・ビジネスセンター(ホテルと一体的に利用できる国際的なビジネス拠点) (ウ) 職住近接・一体型のベンチャー業務施設(SOHO等)
4 次世代エネルギーを活かしたまちづくりへの挑戦 ～プロトンアイランズ構想の実現～
(ア) 次世代エネルギーに関する国際的な研究機関 (イ) 水素等次世代エネルギー供給拠点
5 先進的な国際航空貨物の総合物流拠点
国際航空貨物総合物流拠点(空港貨物地区と機能的に一体化)

図表 1 - 2 事業スケジュール



(注) 本スケジュールは、事業の進捗に応じて見直されることがある。